



# 株式会社東陽テクニカ (東証プライム：8151)

## 2023年9月期 第3四半期決算説明資料

2023年8月9日

“はかる”技術で未来を創る

 東陽テクニカ

1. 2023年9月期 第3四半期の決算状況
2. 受注高・受注残高
3. 2023年9月期 業績予想
4. 資本政策と株主還元
5. 時代を切り拓く“はかる”技術への取り組み

1. 2023年9月期 第3四半期の決算状況
2. 受注高・受注残高
3. 2023年9月期 業績予想
4. 資本政策と株主還元
5. 時代を切り拓く“はかる”技術への取り組み

# 2023年9月期 第3四半期決算ハイライト

## ■ 売上高：対前年同期比+21.9億円（+11.5%）の211.5億円

- ・カーボンニュートラル分野の活発な投資により物性／エネルギー事業が増収し、全体では前年同期比プラス
- ・Q3期間においては、情報通信／情報セキュリティ事業が売上遅延、および機械制御／振動騒音事業のAD／ADAS※1向け大型案件が米国客先都合で納入遅延

## ■ 営業利益：対前年同期比▲6.1億円（▲34.7%）の11.4億円

- ・為替変動による売上総利益率の低下がQ3半ばまで影響
- ・戦略的に低利益率で受注をした中国国家機関向け大型案件を売上計上
- ・成長戦略のための人材先行投資、営業活動の活発化などによる販管費が想定より増加

## ■ 当期純利益：対前年同期比▲5.0億円（▲34.1%）の9.6億円

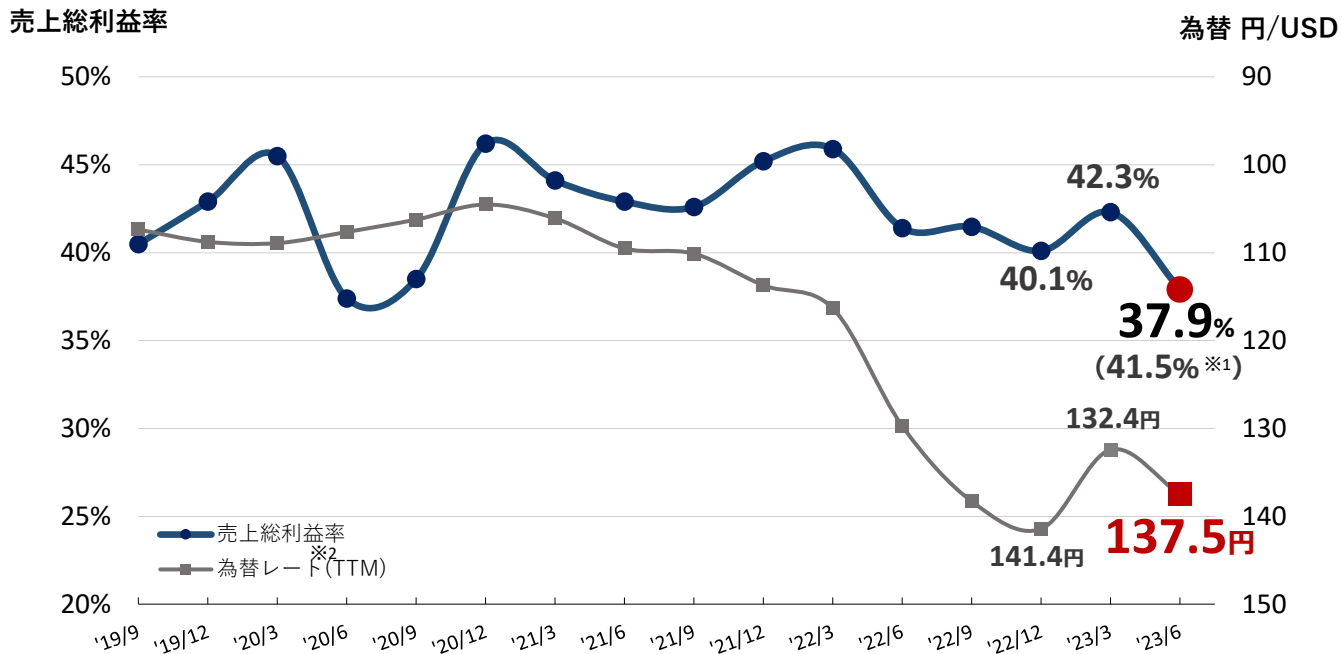
(単位：億円)	2022年9月期 Q3実績	2023年9月期 Q3実績	前期比	
			増減金額	増減率
売上高	189.6	211.5	+21.9	+11.5%
営業利益	17.5	11.4	▲6.1	▲34.7%
経常利益	21.1	13.6	▲7.4	▲35.5%
当期純利益	14.6	9.6	▲5.0	▲34.1%

※1)AD=自動運転 (Autonomous Driving) ADAS=先進運転支援システム (Advanced Driver-Assistance Systems)

“はかる”技術で未来を創る

# 為替と売上総利益率の推移

為替変動の影響は落ち着くも、売上総利益率の低い大型案件売上により37.9%に減少



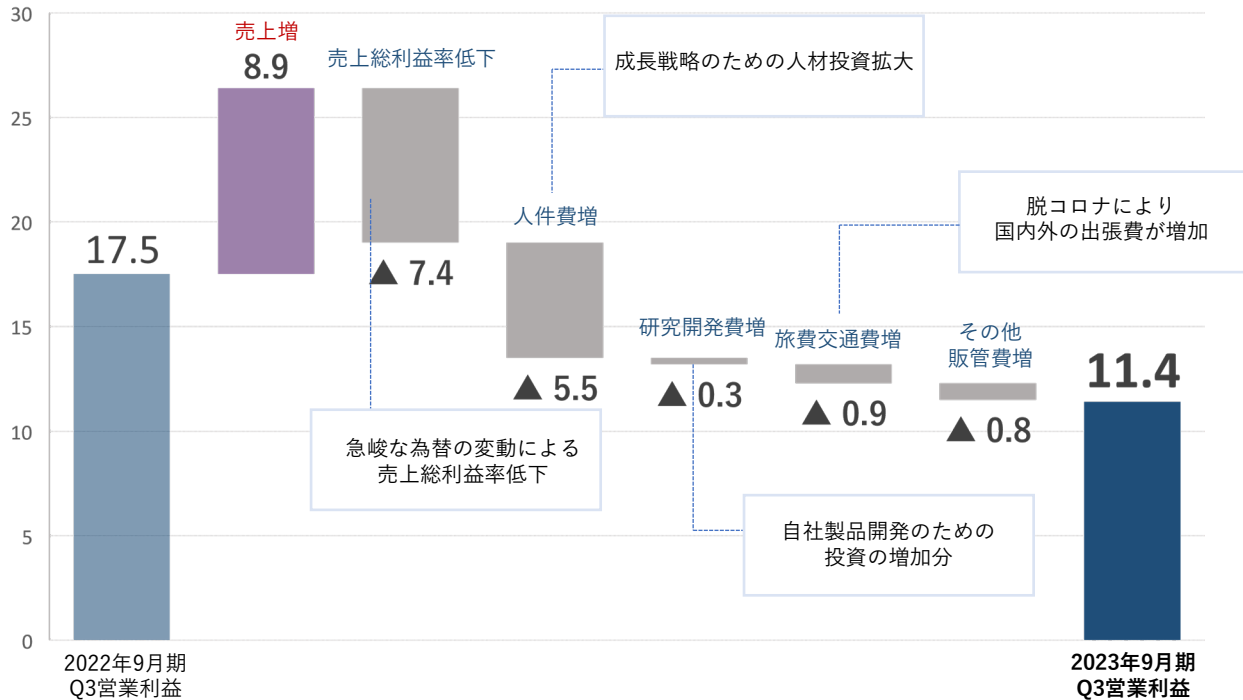
※1：中国国家機関向け案件を除外した売上総利益率

※2：3ヶ月間ごとの平均レート

# 営業利益増減要因（対前年同期比）

為替変動による売上総利益率の低下および、人材等先行投資により販管費が増加

（単位：億円）



# セグメント別 売上高／セグメント利益分析

物性／エネルギー事業が売上高・利益ともに牽引

Q3期間で情報通信／情報セキュリティ事業、機械制御／振動騒音事業米国向け案件で遅延

セグメント (単位：億円)	売上高 (前年同期比)	セグメント利益 (前年同期比)	事業概況
情報通信／ 情報セキュリティ	<b>50.0</b> (▲5.4%)	<b>1.6</b> (▲75.8%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■いくつかの案件において顧客の設備導入スケジュール変更による納入遅延発生で売上高が減少</li> <li>■サービスプロバイダ向け低利益率大型案件の発生によりセグメント利益減少</li> </ul>
機械制御／振動騒音	<b>34.4</b> (+3.1%)	<b>2.7</b> (▲46.9%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■CASEの電動化分野におけるモータートルク計測装置の販売が堅調に推移するも、米国AD／ADAS向け大型案件売上が客先都合での遅延により微増</li> <li>■為替変動の影響による利益率低下は足元では改善だがQ3では段階的だったためセグメント利益減少</li> </ul>
物性／エネルギー	<b>51.8</b> (+15.8%)	<b>12.2</b> (+24.9%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■カーボンニュートラル分野の全固体電池や燃料電池向け自社開発製品および電気化学測定装置の販売が順調で売上高・セグメント利益増</li> </ul>
EMC／大型アンテナ	<b>43.5</b> (+62.7%)	<b>2.4</b> (+738.9%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■前期移管した材料評価分野事業も順調に立ち上がり</li> <li>■国内・中国において積み上がっていた受注残の納入が進み、売上高が大幅に増加</li> <li>■Q3は国内堅調の一方で中国における低利益率案件売上で前四半期より微減</li> </ul>
その他※1	<b>31.7</b> (▲0.6%)	<b>4.8</b> (▲22.1%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ソフトウェア開発支援においてゲーム関連ビジネスが堅調に推移したものの、海洋／特機での新製品販売の貢献がQ4以降となるため、売上高・セグメント利益ともに減少</li> </ul>
全社費用※2	-	<b>▲12.4</b> (+16.6%)	
合計	<b>211.5</b> (+11.5%)	<b>11.4</b> (▲34.7%)	

※1 [その他]には海洋／特機、ソフトウェア開発支援、ライフサイエンスの3セグメントが含まれます。

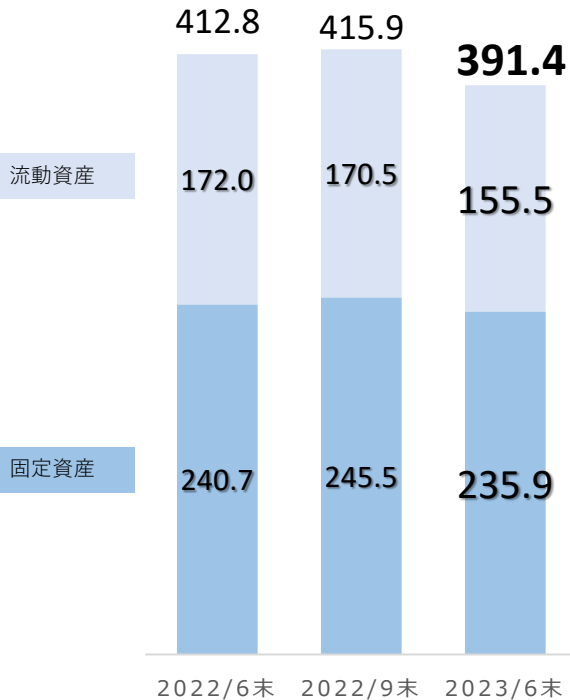
※2 [全社費用]は、報告セグメントに帰属しない営業費用のほか、引当金の計上方法による差異等が含まれます。

「はかる」技術で未来を創る

# 貸借対照表 主要項目

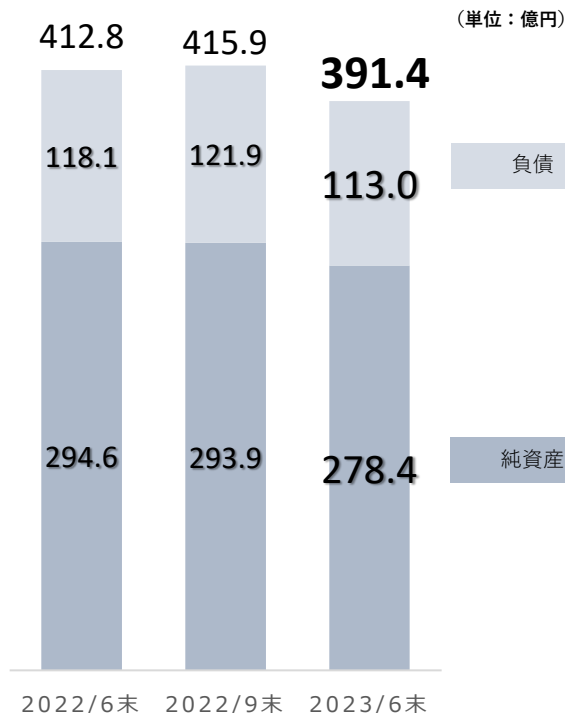
## 総資産

- 「商品及び製品」の増加
- 「有価証券」の減少「投資有価証券」の減少



## 負債・純資産

- 「支払手形及び買掛金」および「契約負債」の減少
- 自己株式の取得による純資産の減少





1. 2023年9月期 第3四半期の決算状況
- 2. 受注高・受注残高**
3. 2023年9月期 業績予想
4. 資本政策と株主還元
5. 時代を切り拓く“はかる”技術への取り組み

## 受注は前期並み、受注残高は拡大し今期～来期売上に貢献見込み

- **受注高**：対前年同期比+**3.3億円**（+1.4%）の**232.8億円**

物性／エネルギー事業が牽引

- **受注残高**：対前年同期比+**18.8億円**（+11.9%）の**176.8億円**

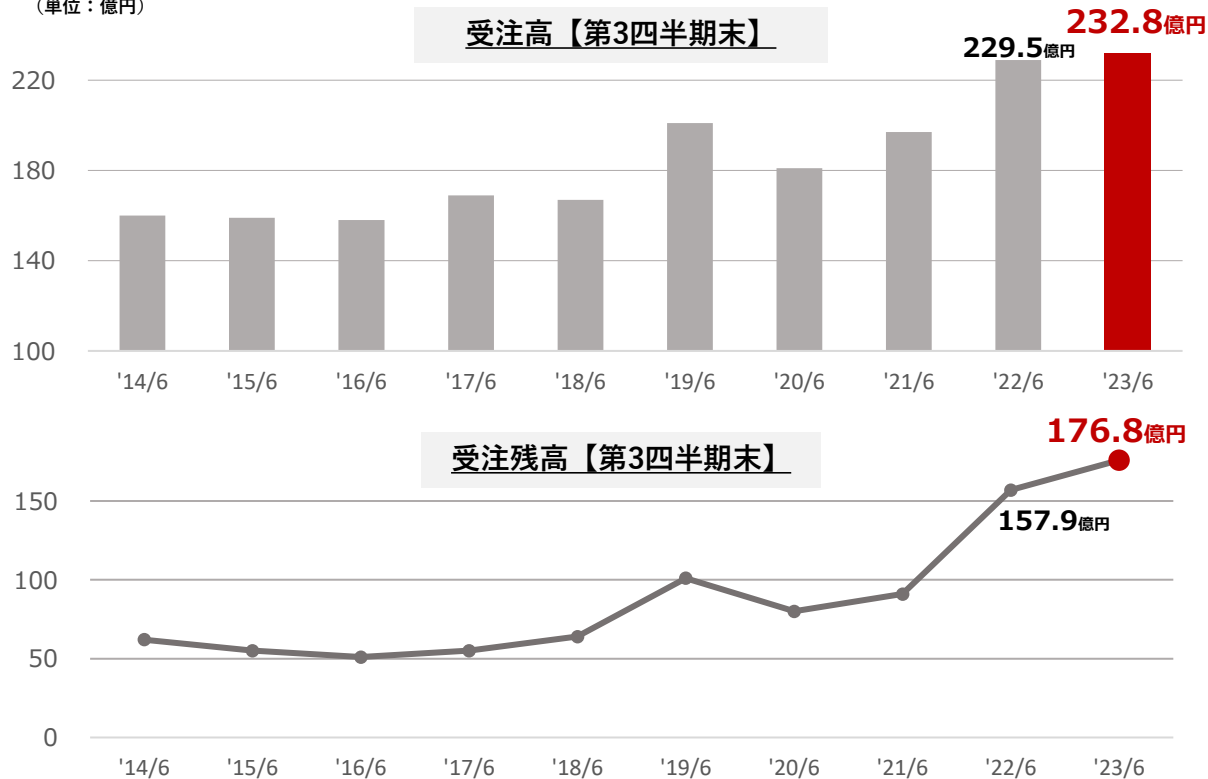
物性／エネルギー、機械制御／振動騒音、情報通信／情報セキュリティ、  
海洋／特機事業で増加

（単位：億円）	2022年9月期 Q3実績	2023年9月期 Q3実績	増減額	増減率
受注高	229.5	232.8	+3.3	+1.4%
受注残高	157.9	176.8	+18.8	+11.9%

# 近年の推移 - 受注高・受注残高【第3四半期末推移】

## 受注高・受注残高は引き続き増加傾向

(単位：億円)



# セグメント別 受注高・受注残高

## Q3期間の受注は一服、受注残高は引き続き拡大傾向

セグメント (単位：億円)	受注高 (前年同期比)	受注残高 (前年同期比)	事業概況
情報通信／ 情報セキュリティ	<b>56.7</b> (+0.8%)	<b>33.2</b> (+26.1%)	■サービスプロバイダ向け情報セキュリティ製品は引き続き堅調で受注残高は拡大傾向
機械制御／振動騒音	<b>43.4</b> (▲10.4%)	<b>34.0</b> (+20.8%)	■自動車業界における電動化への投資強化により、従来の振動騒音分野の研究開発投資が縮小、受注高が減少 ■Q1に受注したAD／ADAS評価試験向け大型案件により受注残高は増加
物性／エネルギー	<b>62.5</b> (+9.2%)	<b>48.9</b> (+41.1%)	■引き続きカーボンニュートラル分野の投資は継続して活況で、全固体電池や燃料電池向け自社開発製品およびEV向け急速充電評価装置の受注が好調
EMC／大型アンテナ	<b>33.8</b> (▲9.7%)	<b>33.9</b> (▲24.5%)	■前期大型アンテナプロジェクト関連での大型補正予算案件に相当する特殊需要が発生せず受注高が減少 ■国内・中国において積み上がっていた受注残の納入が進み受注残高は減少
その他※1	<b>36.2</b> (+21.0%)	<b>26.5</b> (+12.0%)	■特機関連において顧客の予算増額により、受注高および受注残高が増加 ■ゲーム関連ビジネスが堅調で受注高が増加
合計	<b>232.8</b> (+1.4%)	<b>176.8</b> (+11.9%)	

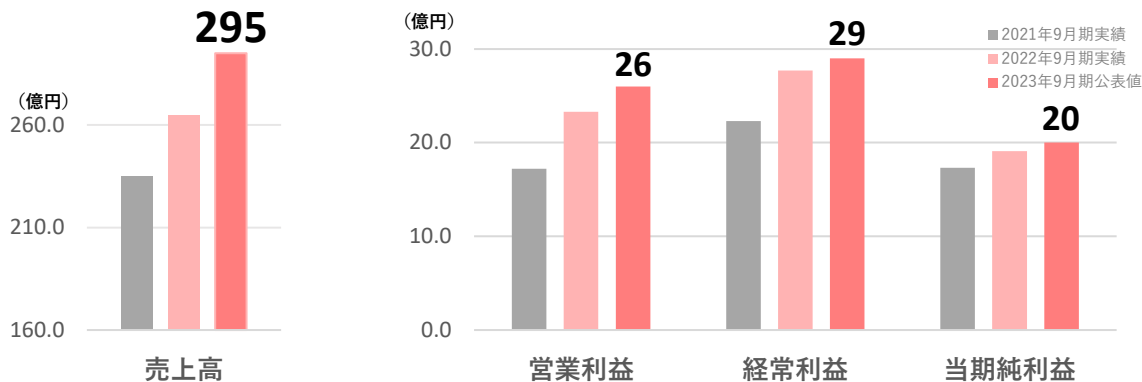
※1) [その他]には海洋／特機、ソフトウェア開発支援、ライフサイエンスの3セグメントが含まれます。

“はかる”技術で未来を創る

1. 2023年9月期 第3四半期の決算状況
2. 受注高・受注残高
- 3. 2023年9月期 業績予想**
4. 資本政策と株主還元
5. 時代を切り拓く“はかる”技術への取り組み

# 2023年9月期 業績予想

## 業績予想については据え置き、Q4に高利益率の大型案件売上予定



(単位：億円)	2021年9月期 実績	2022年9月期 実績	2023年9月期 公表値
売上高	235.1	264.9	295.0
営業利益	17.2	23.3	26.0
経常利益	22.3	27.7	29.0
当期純利益	17.3	19.1	20.0

“はかる”技術で未来を創る

1. 2023年9月期 第3四半期の決算状況
2. 受注高・受注残高
3. 2023年9月期 業績予想
- 4. 資本政策と株主還元**
5. 時代を切り拓く“はかる”技術への取り組み

## 取得総額上限に達したため自己株式取得完了

当社は株主還元および資本効率の向上と、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を図るため、自己株式の取得を実施しております。

この度取得価額の総額が上限に達したため取得を終了しました。

### 取得の内容 2023年6月15日現在

- (1) 取得対象株式の種類 : 当社普通株式
- (2) 取得した株式の総数 : 149万2,100株 (上限200万株)
- (3) 株式の取得価額の総額: 19億9,994万円(上限20億円)
- (4) 取得期間 : 2022年8月12日～2023年6月15日



# 資本政策と株主還元：配当金の推移

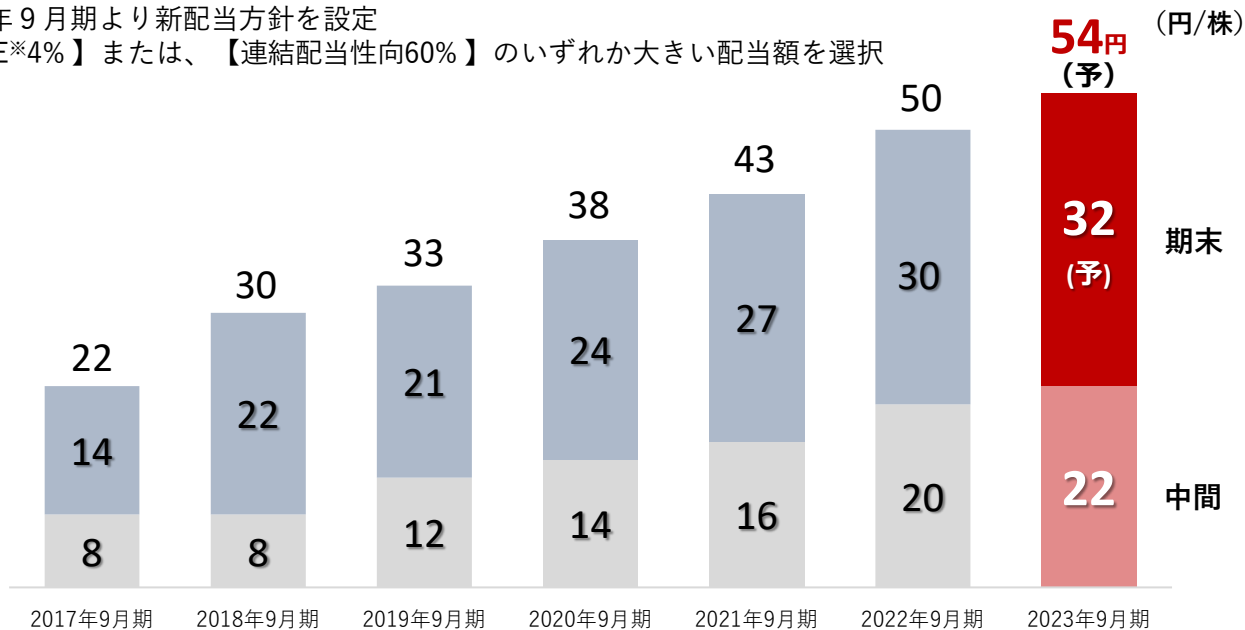
## 中間配当は増配、株主還元のために毎年着実な増配を実現



- ・ 中間配当につき期初予想20円→22円に増配修正
- ・ 期末配当金も前年より2円増配、年間配当金は期初予想52円→54円を予定

2022年9月期より新配当方針を設定

【DOE※4%】または、【連結配当性向60%】のいずれか大きい配当額を選択



※DOE (自己資本配当率) = 年間配当総額 ÷ 自己資本

©TOYO Corporation

“はかる”技術で未来を創る

1. 2023年9月期 第3四半期の決算状況
2. 受注高・受注残高
3. 2023年9月期 業績予想
4. 資本政策と株主還元
5. 時代を切り拓く“はかる”技術への取り組み

## 高速データ書き込み技術で日米に続き中国での特許を取得

### 当社開発製品【大容量パケットキャプチャ/解析システム「SYNESIS」】

【情報通信/情報セキュリティ事業】

- 自社製品である【大容量パケットキャプチャ/解析システム「SYNESIS」】に搭載の**コア技術“パケットキャプチャ装置及び方法”**において、**新たに中国での特許を取得。**

- 同技術は、日本（2021年9月）、米国（2022年4月）に続いて中国での特許取得になる。

- 中国では2025年には10億端末が5Gに接続されるとの予測\*1。  
今後ネットワークの高速大容量化・複雑化に伴い、**ネットワークの障害対応に必要とされる専用のパケットキャプチャ装置の需要も高まると見込む。**  
**当社として来期10台の販売を目指す。**

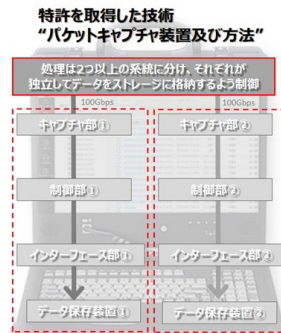
参照URL：当社ニュースリリース(2023年5月16日)

[「200Gbpsフルキャプチャを支える大容量パケットキャプチャ/解析システム「SYNESIS」に搭載の高速データ書き込み技術、日米に続き中国での特許を取得」](#)

\*1) 移動通信関連の業界団体GSMA（GSM Association）による中国の移動通信市場動向調査レポート「The Mobile Economy China 2023」（2023年3月発行）  
<https://www.gsma.com/mobileeconomy/china/>



大容量パケットキャプチャ/解析システム「SYNESIS」



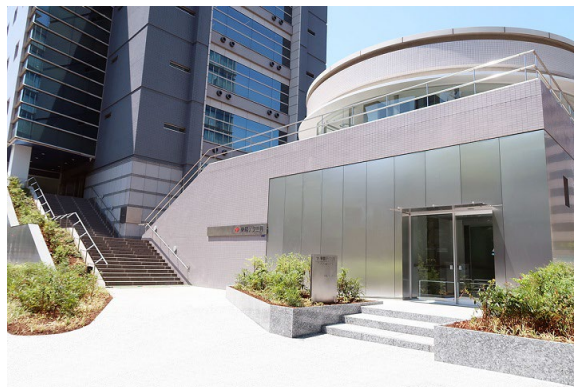
「パケットキャプチャ装置及び方法」イメージ図

“はかる”技術で未来を創る



## 未来の計測ソリューションを創造する新たな技術開発拠点

### 「R&Dセンター」が竣工



「R&Dセンター」外観

- 2023年7月31日、新たな技術開発拠点として、東京都江東区木場に「R&Dセンター」を竣工
- 屋内でEV実車による認証試験を可能にした充電評価システムをはじめ、お客様の研究開発における課題を解決するための様々な設備を投入、**技術開発拠点としての役割**に加えて、**分散していた拠点の集約**— 物流、検査、修理、校正の一元化—も行き、**迅速に高水準の計測技術を提供する**ことを目指す。
- 快適な業務空間や開放的なリフレッシュエリアを拡充し、社員の創造力向上とイノベーションを促進

参照URL：当社ニュースリリース(2023年7月31日)

[東陽テクニカ、「R&Dセンター」竣工のお知らせ](#) [未来の計測ソリューションを創造する技術開発拠点](#)

# IR ニュースメール



IRニュースメール  
配信登録はこちら

<https://www.toyo.co.jp/ir/mail-magazine/>

当社のIR情報をタイムリーにメールでお届けいたします  
ぜひご登録ください

本資料にて開示されているデータおよび将来に関する予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものであり、経済情勢や市場動向の変化等、様々な理由により変化する可能性があります。従いまして、本資料は、記載された目標・予想の達成および将来の業績を保証するものではありません。

お問い合わせ先  
株式会社東陽テクニカ  
経営企画部  
[toyo-ir@toyo.co.jp](mailto:toyo-ir@toyo.co.jp)